2/4 社会貢献として

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社からの寄贈

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社より、社会貢献の一環としておむつ交換台とベビースケール（乳幼児用体重計）が寄贈されました。

同社とは、2016年10月に地方創生に係る連携協定を締結しており、寄贈は2018年２月に続き２回目となります。

市保健福祉センター内に設置し、乳幼児健診などで有効利用させていただきます。

1/27 子どもたちの未来のために

大田原地区医師会からの寄附

３歳児健診の眼科検査機器「スポットビジョンスクリーナー」の購入費用として、大田原地区医師会から現金100万円の寄附がありました。

市では125万円を設定し、90日間のガバメントクラウドファンディングを実施しましたが、寄附額は39万円であり、購入額が不足していました。

機器の導入により、簡便で確実に斜視や屈折異常を発見することができます。令和３年４月から３歳児健診において使用開始予定です。

2/15 新型コロナ感染症対策のため

レバー式水栓の寄贈

湯津上地区の有限会社野崎工業と金田地区の株式会社サニテック・フカヤから、レバーハンドル式水栓600個が寄贈されました。寄贈品には「自分が育った地元学校の感染拡大防止に役立ててほしい」と地元企業２社の思いが込められています。

寄贈されたレバーハンドル式水栓は取付が容易であるため、それぞれの出身地区である湯津上地区と金田地区の小中学校へ配布しました。

2/15 新校舎の感想は

市長と大田原中学校生徒との座談会

新校舎での学校生活が始まり、その使い勝手や生徒たちの思いを市長が直接聞くために、大田原中学校生徒12名と津久井市長との座談会が新校舎１階多目的室で開催されました。

座談会では「可動式のホワイトボードになって見やすい」や「トイレの自動照明の点灯時間が短い」など多くの感想が出されたほか、生徒から市長の仕事や政策への提言などの意見も出され、有意義な時間を過ごすことができました。

広報おおたわら Apr. 2021／No.1285

2/25 災害時へ役立ててほしい

有限会社高松自動車販売から
大田原消防署への寄贈

有限会社高松自動車販売からコロナ禍の中、市民のために活動している消防署に日頃の感謝を込めて多機能型バッテリー充電器の寄贈がありました。

寄贈品の多機能型バッテリー充電器は、緊急車輌などのバッテリー不良時にエンジンを始動する事ができるほか、携帯電話などへの充電も可能で、不測の事態への備えとして大田原消防署に配備し活用させていただきます。

2/19 地域貢献のために

日本生命保険相互会社
宇都宮支社からの寄贈

日本生命保険相互会社宇都宮支社より、新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため、天然抗菌剤スプレー72本の寄贈がありました。

寄贈していただいた天然抗菌剤スプレーは、ホタテの貝殻を100％使用した、安全で環境にやさしい除菌・抗菌・消臭剤であり、市庁舎各窓口および市有施設で使用させていただきます。

市史編さんだより　vol.6

民俗部会調査速報②
～原風景のなかのトウガラシ～

昭和40年代、夕方になると佐久山では辺り一面がトウガラシの香りで満ちていたといいます。風呂の燃料としてトウガラシのガラ（茎）を燃やしたからです。「とうがらしの郷大田原」にふさわしいエピソードです。昭和38年ごろ、大田原市のトウガラシ生産量は日本一になりました。当時、佐久山では山の斜面一面がトウガラシ畑だったというほど、トウガラシは主要換金作物のひとつでした。菊地孝行さん（昭和29年生まれ）は、赤トウガラシの「栃木三鷹」を出荷用に、青トウガラシの「日光トウガラシ」を食用に栽培していたそうです。

現在、栃木三鷹は刈ったまま出荷しますが、当時は実を摘み、その実をアカ（完熟果）・キンチャ（橙黄未熟果）・アオ（緑色未熟果）・格外品のガラに選果してから出荷していました。規格によって用途や値段が違うためです。

夜なべに家族総出で選果したので、乳飲み子のいる母親のなかには早く乳離れさせるため、トウガラシをもいだ手で乳首を触ってから授乳したといいます。こうした乳離れの習俗は全国的にもみられました。

自家用として、赤トウガラシは天日で干して炒ってから粉にして香辛料にしたり、漬物樽に入れたりしました。漬物樽に入れておくと辛味がつくだけでなく、カビよけにもなるといいます。便所の虫除けとしてトウガラシを使うことも一般的でした。

また、日光トウガラシはたまり醤油に漬けておかずにしました。

トウガラシひとつをとっても、このように暮らしと深く関わりあっていたことがわかります。民俗部会ではこうした手の届く過去の細やかな暮らしぶりを記録していきたいと考えています。

摘み取った赤トウガラシ

漬物樽に入れた
赤トウガラシ

（参考文献『栃木の唐がらし』栃木県輸出とうがらし生産販売連絡協議会発行・1971年）

（民俗部会　筒江（小川）　薫）

問 文化振興課　本 4階
TEL（２３）３１３５

発行／大田原市　編集／情報政策課
TEL 0287(23)8700　FAX 0287(23)8798
https://www.city.ohtawara.tochigi.jp
jouhou@city.ohtawara.tochigi.jp
印刷／有限会社アート美術印刷